

犬山市立楽田小学校

(様式 4-2 : 令和 5 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる教員支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称：楽田アイデンティティ教育					
2. テーマ：～小牧線を知れば楽田がわかる～					
3. 実施教科：理科・社会科・総合的な学習の時間					
4. 関連単元：社会「水はどこから」 理科「水の行方」					
5. 実施単元数：5					
6. 学年	4 年	7. クラス数	3 クラス	8. 生徒数	73 名
7. 実施内容					
★単元目標★					
・楽田地区に対するアイデンティティを芽生えさせ、地域を愛する誇りを持てるようにする					
・楽田地区を大切にしながら、今後どのようなこと必要になってくることを意識できるようになる					
本取り組みは、楽田地区の郷土学習を基に、地元愛を深めるカリキュラムデザインがベースとなっている。ふるさと「楽田」は、街道の成り立ちと切っても切れない関係にあり、その街道沿いに名鉄小牧線ができた。小牧線を柱に学習を深めることで地域への理解を深め、楽田地区の未来を想像することで公民的資質やシティズンシップを身につけるよう学習を進めていきたい。さらに本活動は、持続可能な設定を目指すために、通常のカリキュラムを基盤に実施するが、地域のリソースを最大限に活かした特別授業を各単元で1～2時間行うことで、深い学びや学ぶ意義を実感できるような学習展開にする。さらに、年間を通して計画的にこのような授業を取り組むことで、ふるさと「楽田」へのアイデンティティの確立につながるよう指導を行っていく。					
★学習のながれ★					
4月 小牧線に乗って名古屋へ行く：校外学習（社会）「水はどこから」（5時間）					
尾張の中心地が清洲にあったのは水運等の立地によるものであろう。その後、徳川家康により名古屋が中心地となった。「熱田神宮から名古屋城まで伸びると堀川」や「木曾の檜を木曾川で運搬したこと」「木津用水の工事」など、開墾や木曾の檜の運搬などで、犬山と名古屋の水運によるホットラインができる。現在でも名古屋市の水は鍋屋上野浄水場から配分されるが、そのパイプは本地区を通っている。					

まず、浄水場見学を鍋屋上野浄水場に行くこととして、犬山と名古屋の視点で水の流れを追い、その見学に際し、名鉄小牧線に乗って見学した。

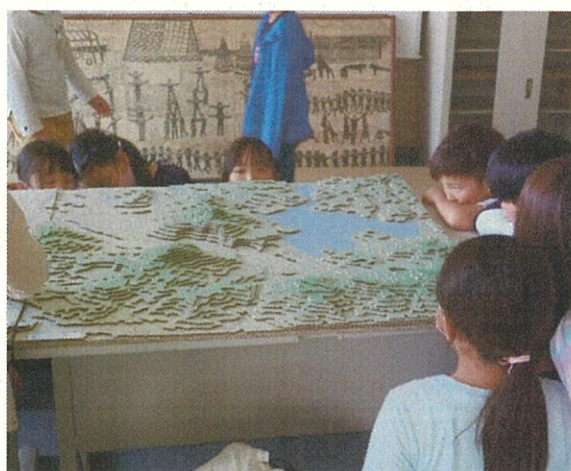


9月 GoogleEarthで楽田の場所を確認しよう：校外学習（社会）「楽田はどこにあるの」（1時間）

校外学習で出かけた場所を、地図アプリで確認する。その時に、点と点で見るのではなく、線として考える必要がある。犬山市を出発し、小牧市、豊山町、春日井市、名古屋市へとつながる。街と街をつなげるのが鉄道で、愛知県北部は、名鉄がその役割を担っていることも踏まえた地域の把握を行う。

10月 愛知県北部の水の流れをつかんでみよう：理科「水の行方」（1時間）

理科で、水は高いところから低いところへ流れることを学ぶ。その後、「なぜ入鹿村に入鹿池を作ることになったのだろうか」を取り上げた。入鹿池を作ることになった大きな原因として、「お囲い堤」によって犬山東部、小牧などの地域が水不足になったことを押さえた上で、入鹿村の様子から「入鹿村がため池を作る場所選ばれた理由を資料から考えてみよう」と発問した。子どもが書いているノートを見てみると「人口が少なかったから」とか、「田んぼがあったから」など土地の特徴に触れていなかったが、「地域学習室がっけん」に置いてある段ボールジオラマを観察することで、高低差を立体的に把握した。すると、理科で学習した水の流れ方（高いところから低いところへ流れる）と絡めて、入鹿池が町より高い位置にあることを確認した。「本当に入鹿池のある場所はお盆のようになっているのが分かった」や、「自分の住んでいる場所より高いところに入鹿池があることが分かった」など、高低差の特徴をしっかりと捉えられていた。



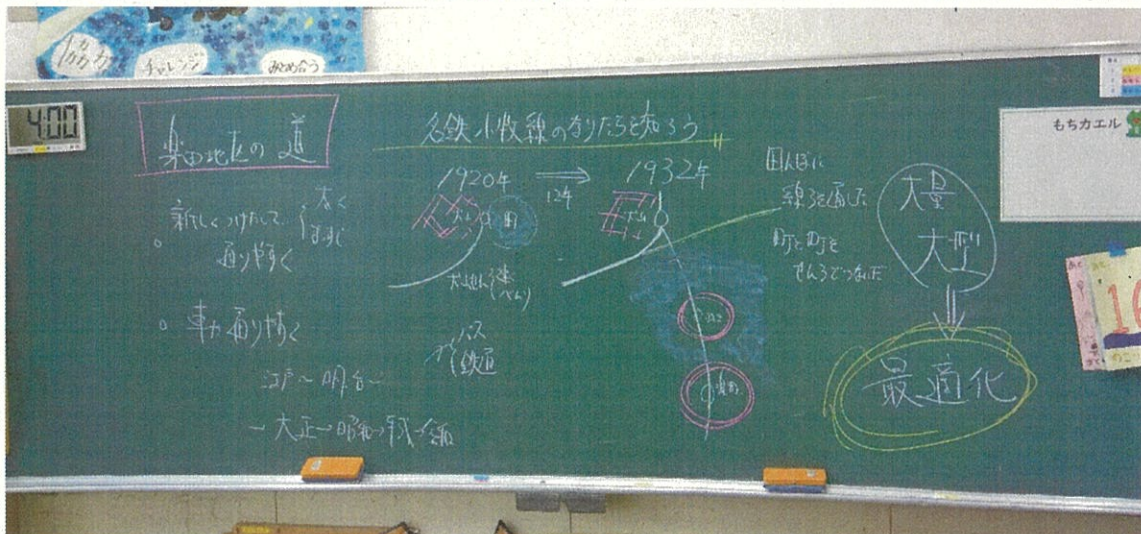
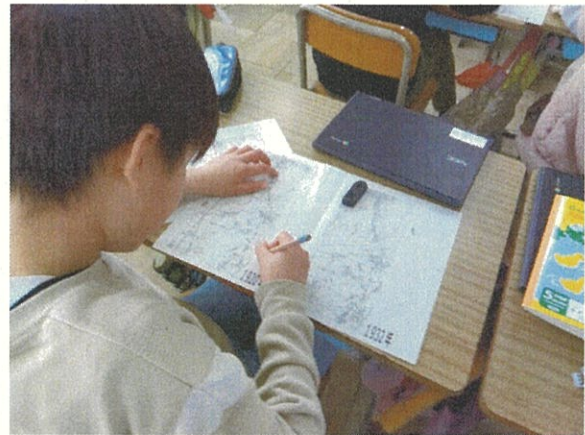
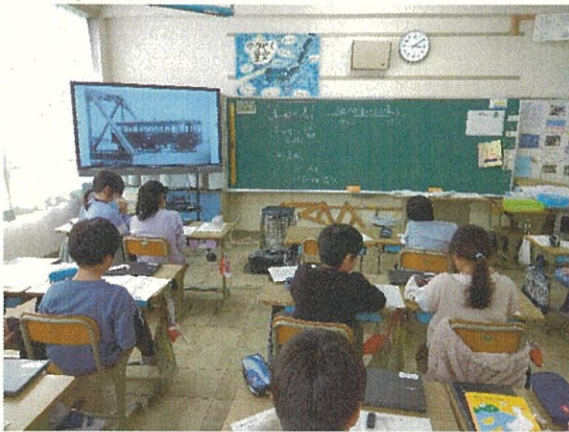
1 1月 稲葉街道を見学に行こう：校外学習（社会）「歴史の通り道」（1時間）

本地区を貫く稲葉街道の遺構は、通学路の一部にもなっており子どもたちには日々の生活の中でなじみ深い。道の細さやクランクなどどうしてこのような構造になっているかを知っている人は少ない。中山道と東海道をつなぐ脇街道として木曾街道が本校区内を通っている。追分（学区内地名）には宿があったとされている。実際に観察することで、過去をイメージした。



1 2月 名鉄小牧線の謎を知り、楽田地区の未来を考えよう：総合的な学習の時間（1時間）

今昔マップを活用し、街道と名鉄小牧線の歴史と絡めながら、楽田地区の人の流れの変遷を資料から読み取った。最近まで地下鉄に繋がっていなかったことや現在でも単線である現状を話題にしながら今後の町づくりについて思案した。今後、どのような交通に発展し、楽田地区はどのようなまちづくりを選択していけば良いのか、考えを深めた授業となった。



※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。



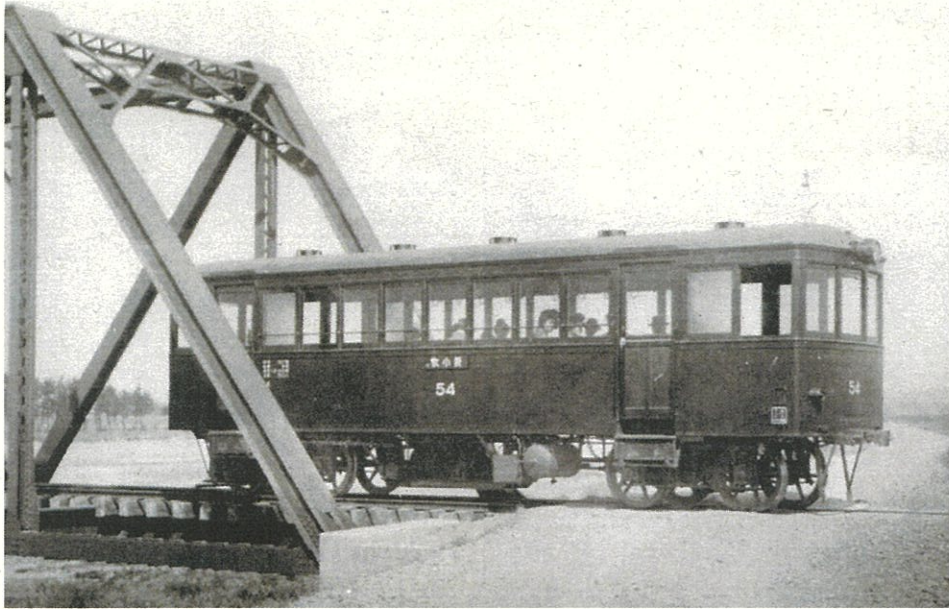
名鉄小牧線



犬山線



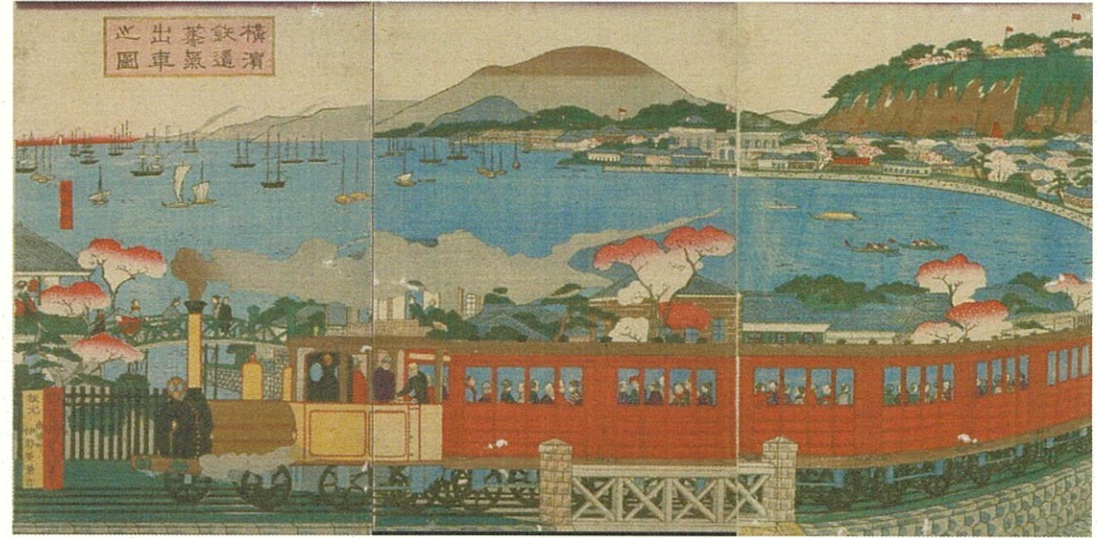
小牧線



歴史をたどってみよう

地図を確認

最初の 鉄道も 同じ悩みを抱えていた



住宅地は簡単には通せない

木曾街道と名鉄小牧線

4年生 社会

めあて：交通と歴史の視点を基に、楽田地区の人の流れの痕跡と今のつながりを発見する

日時：2月14日（水）

1・2時間目 3組 2・3時間目 2組 5・6時間目 1組

ガイド：にわ里ネット

引率：

担任+教頭+PTA ボランティア
(依頼中)

【授業展開】

1時間目：地図と歴史

気づきの観点

- 細い道
- 城山（楽田城）
- ダンプカーの通る道

2・3時間目：楽田散策（本時）

確認ポイント

- ③楽田城跡
- ①追分
- ②鍵の手

4時間目：名鉄小牧線の歴史

気づきの観点

- 割とずっと都会
- ちょっと遅れた開通

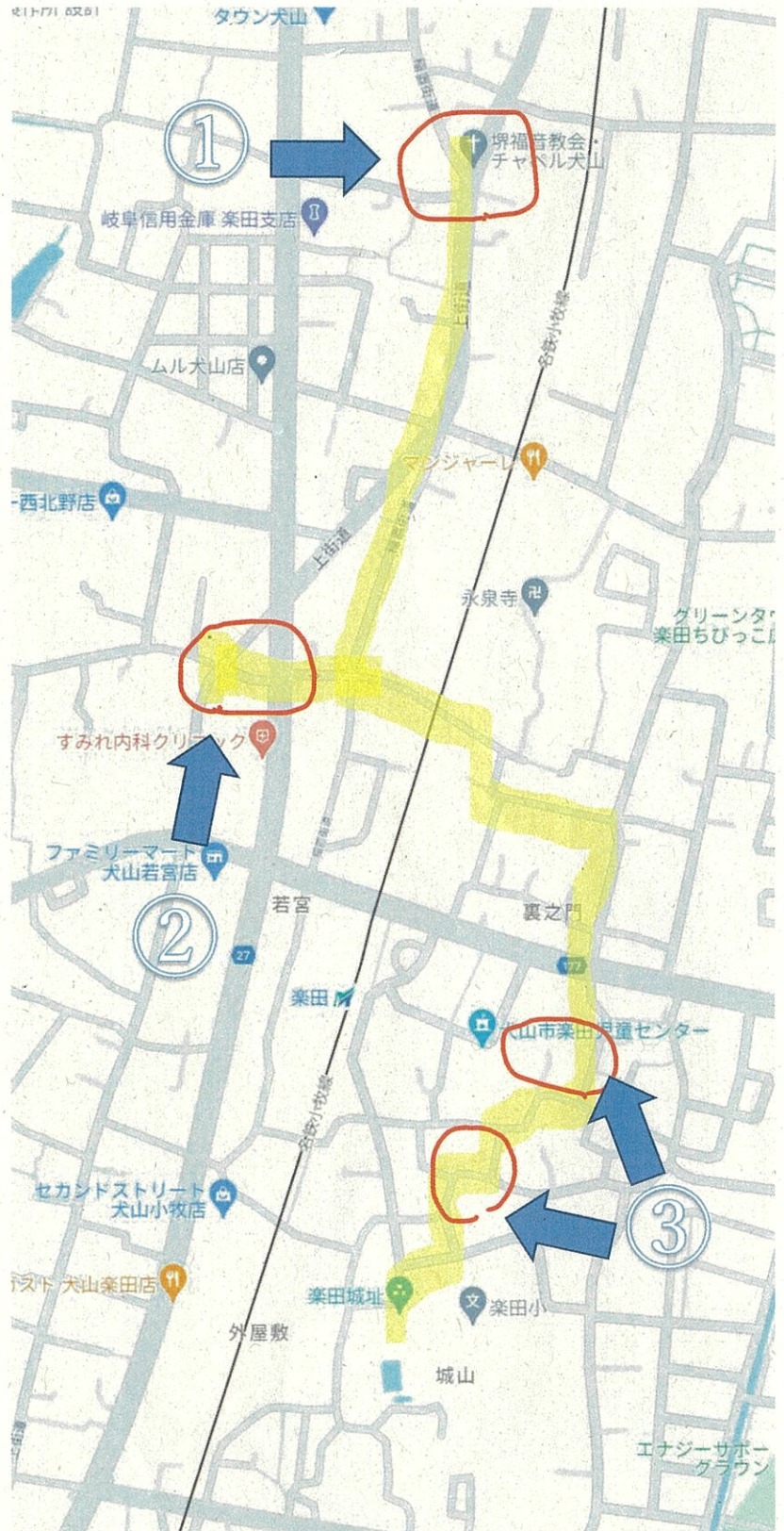
【目指す気づき】

- 歴史ある地区「楽田」を知る
- 身近なところに歴史がつまっている

【PTAの皆さんへの依頼】

安全確保 道を渡るときは横断旗
～お誘い～

NHKのプラタモリのような授業を目指しています！外に出るので、多くの目があると助かります。お時間がありましたらご参加下さい。





1888年



1932年

木曾街道 - 楽田・岩崎山 -

NPO法人 ニワ里ねっと 服部 哲也

木曾（上）街道とは

名古屋城下と中山道伏見宿を結ぶ十里八丁（約40キロ）。尾張藩道（公式の道）。

尾張藩の木曾山林拝領に伴って整備され、1623年（元和9年）整備着手。10年後の寛永期頃整う。

宿駅は小牧・善師野・土田。道幅は2間、一里塚も築かれるなど五街道なみに整備。

楽田追分にて、犬山城への「稲置街道」と分岐。太田の渡しにて中山道に合流。

木曾街道小旅行

まずは小牧宿へ

名古屋城東大手門（起点）

成瀬家中屋敷

清水口

名古屋への「五口」

- ・清水口（上街道）
- ・大曾根口（下街道）
- ・駿河口（飯田街道）
- ・熱田口（美濃路）
- ・枇杷島口（美濃路）

名古屋「三名水」

- ・亀尾の清志水（清水口）
- ・扇風呂の井水（蒲焼町）
- ・清寿院の柳下水（大須）

御用水

1663年。白沢溪谷あたりから取水
名城お堀を経て堀川へ流れます。

城下の上水道にも利用されました。

なお、並行する黒川は明治9年の掘削

矢田川

現在の流路は昭和7年より

味鏡の渡し

湯水期には仮橋が架けられました。

庄内川

「土岐川」「玉野川」「勝川」

「味鏡川」など呼び名が変わります。



名古屋からの主要街道

「ナゴヤ歴史探検」より 加筆

味鏡神社と護国院天永寺

式内社。石橋（清正橋）が移築しています
古墳時代の石棺あり＝周辺は味鏡古墳群

首切り地蔵

手打ちにされかけた女中の身代わりとのこと。

柵形（ますがた）

道がクランク状折れ曲がる地点です。
宿場の入り口や街道の要所に設置。
防御的構造。上街道は多い。
「鉤曲」「鍵の手」「大曲」とも

味美

前方後円墳がいっぱい味美古墳群
味鏡原には一里塚跡
春日山古墳横に豊場常安寺への道標あり

勝川道との追分

湿地帯の味鏡を避けて勝川を經由する道。

外山神社

式内社。境内から弥生時代の銅鐸が出土。
周辺には縄文～古代の遺跡や城跡あり。

小牧宿 上街道とともにできた宿場

南木戸高札場

啓運寺内に石碑。道对面に降りた屋根神様あり。

尾張藩（小牧）御殿

藩祖義直からの別荘地。後には代官所も併設。
近くには脇本陣「岸田家」が残ります。

清須道起点

小木～藤島経由の道。近くに本陣跡あり。

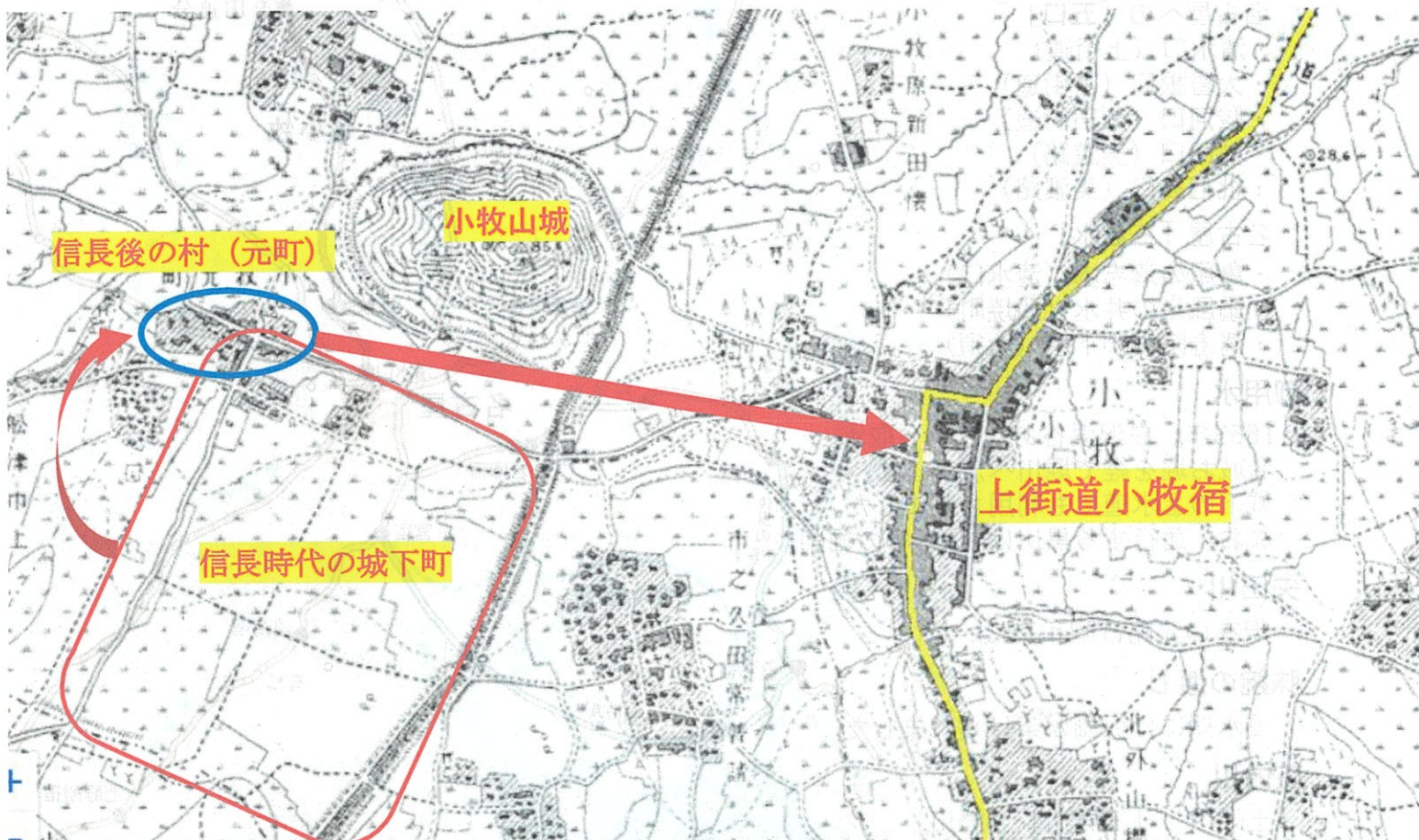
横町（柵形）

街道は宿場内で大きく状折れ曲がります。道標あり。
元町や一宮道への分岐でもあります。

小牧原～田県神社間

味岡に一里塚跡
清流亭跡の藤（県指定）
原川の年貢橋（清正橋）は移築されています。
明治期の田県神社地点は杜のみで社はない。
大廻り（おおまがり）が地名として残っています。

岩崎山へ寄り道してみましよう！



上街道小牧宿（明治24年地図 国土地理院）

岩崎山周辺

「小牧の文化財地図
訪ね歩きマップ
(味岡地区)」
より抜粋



① 熊野社(岩崎山岩跡)



⑪ 観音寺



⑰ 御獄教石碑



図は「小牧散歩Ⅱ」より

① 熊野社(岩崎山岩跡)

祭神は伊邪那岐尊・伊邪那美尊。南西の郷新田から、寛文7年(1667)岩崎山に移転遷座された。この一帯は小牧・長久手の合戦の折、秀吉方の砦が築かれ、稲葉一鉄が守備し、小牧山の家康軍と対峙した古戦場でもある。

⑪ 観音寺

本尊は十一面観世音菩薩立像。境内には、西国三十三観音像が祀られ、多くの古い石仏や様々な石灯笼がある。

⑰ 岩崎山石切場跡

岩崎山全域は花崗岩で覆われ、慶長の名古屋城築城・宝暦の大修理の際に石垣材としても運び出された。石のみ跡(矢穴)や工事に関わった諸大名の刻紋が付いた巨石が山中各所に残っている。

②② 熊野社の五枚岩

昭和35年愛知県指定天然記念物。岩崎山中腹にあり、花崗岩で出来た巨石。古来山岳信仰の修験場とされた。

②④ 切支丹灯笼・慰霊碑

昭和45年市指定有形文化財。もと岩崎山南麓兼松家屋敷内にあった。石柱の中央部に彫らみがあり、十字の形を連想できることから切支丹灯笼と呼ばれている。後方に慰霊碑が建っている。

②⑤ 丹羽先生頌徳碑

岩崎学校訓導をしていた丹羽平治郎氏の頌徳碑。教え子には、後に味岡村村長となった丹羽欽治氏がいる。



⑱⑲ きられ地蔵碑



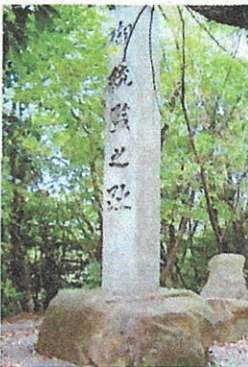
②① 岩崎山石切場跡



②② 熊野社の五枚岩



②④ 切支丹灯笼・慰霊碑



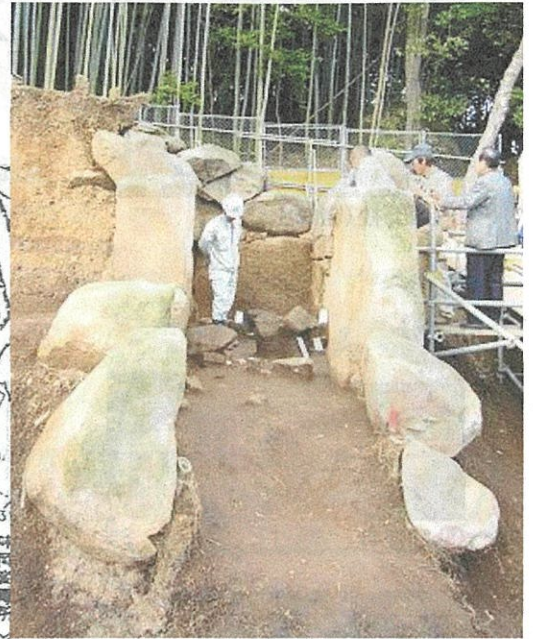
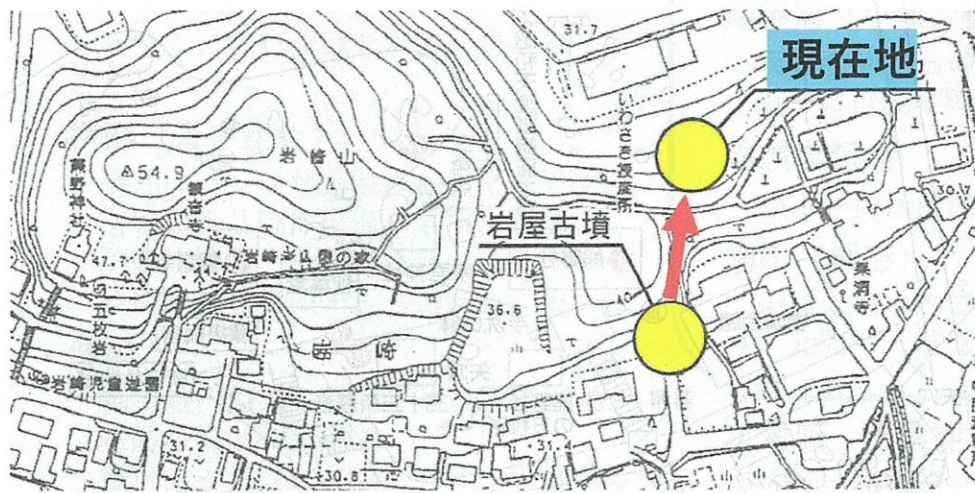
②③ 昭和天皇御統監跡



②⑤ 丹羽先生頌徳碑

意外とすごい！「岩屋古墳」

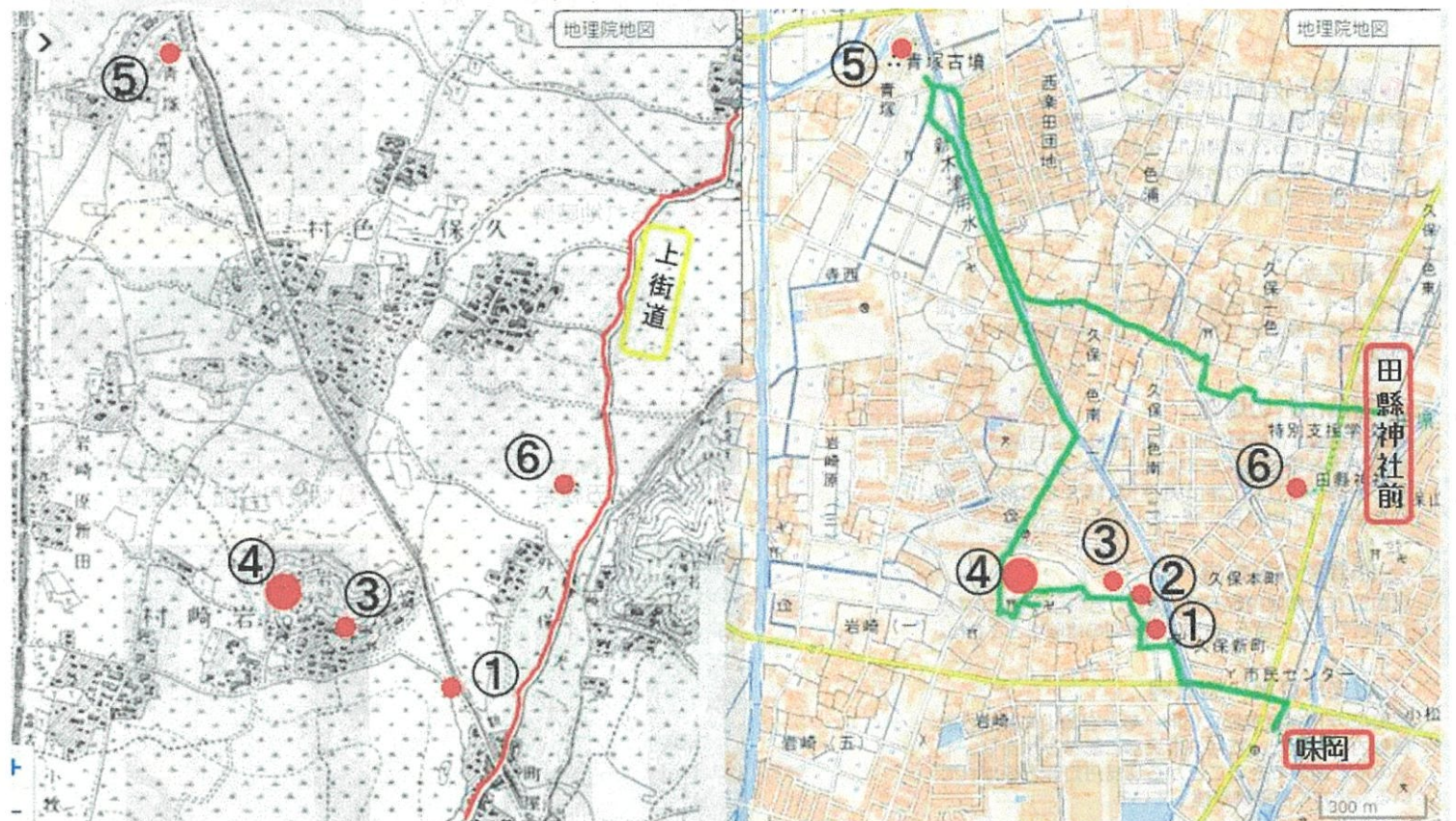
立地の謎…なぜここに造られたのか
 墳形の謎…7世紀の方墳か
 埋葬施設の謎…横穴式石室。石室石材の加工。家形石棺。



岩屋古墳（調査時）

上街道からおススメの寄り道散策コース。

- ①年貢橋～②泉洞寺（浅野祥雲作の像）～③岩屋古墳～④岩崎山（石切り場・五枚岩・刻印石・切支丹灯籠）～⑤青塚古墳～（オプション庚申寺・田縣神社）

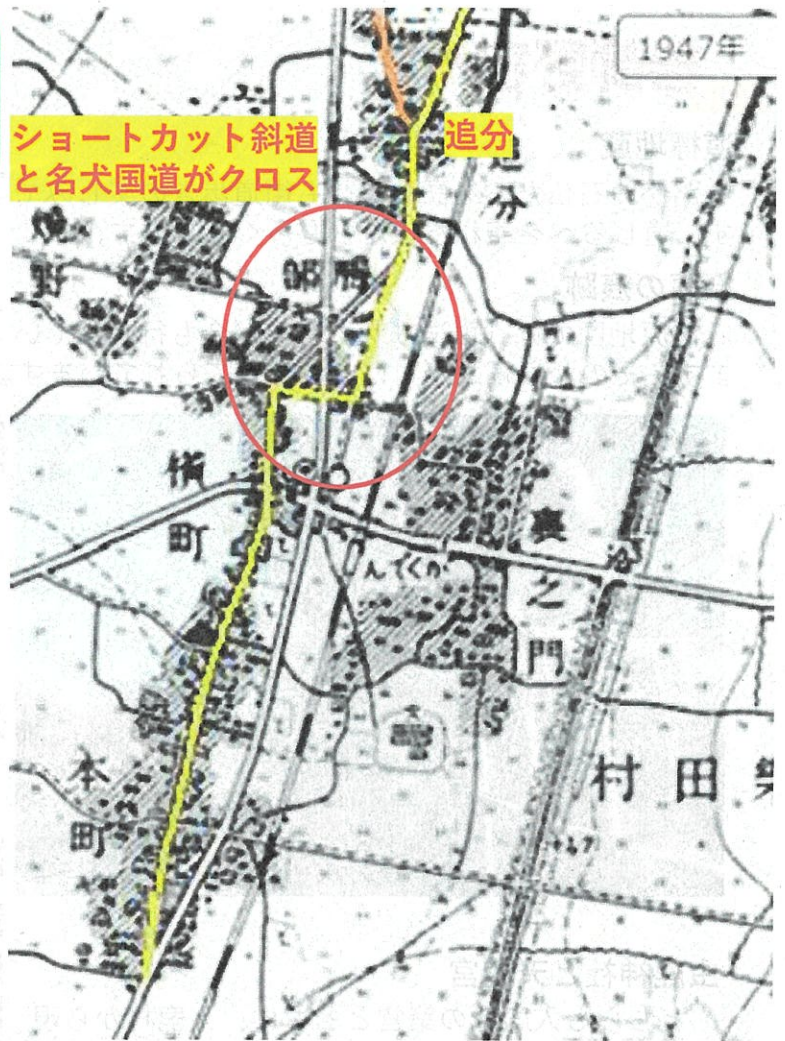
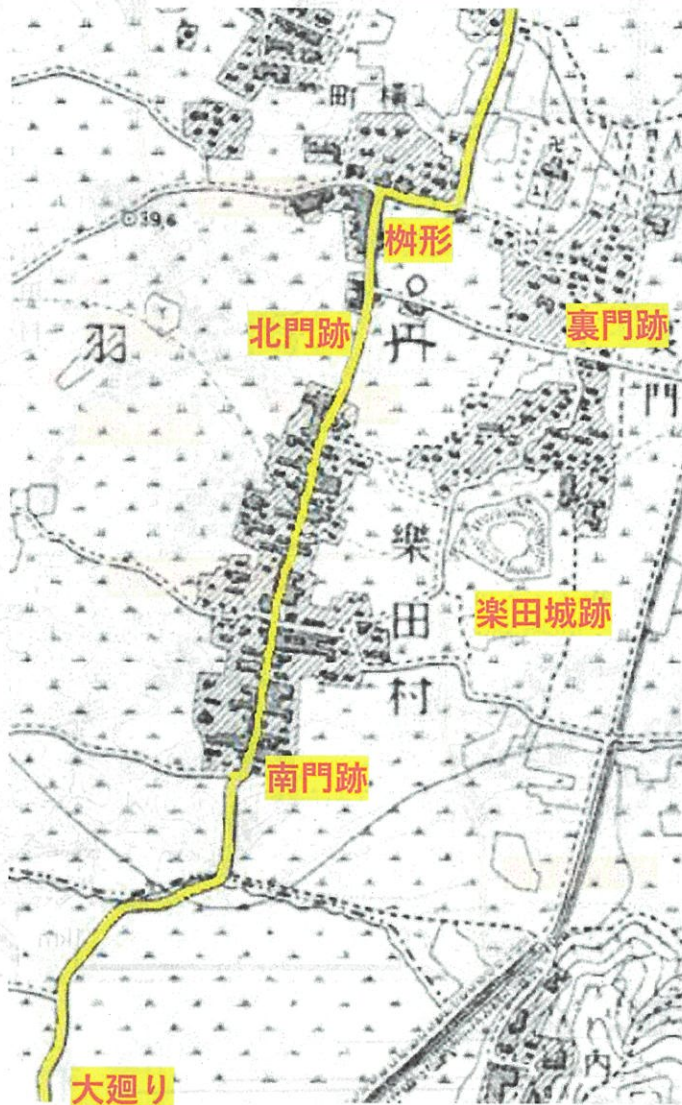


明治と現在の地籍図

この地図は、時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」(C)谷 謙二)により作成したものです。

楽田 街道歩きの見どころ満載エリア

旧道・枳形・追分・一里塚



左. 右下. 明治24年. 右. 昭和22年 国土地理院地図
名鉄や名犬国道が旧街道を引き裂く

南門跡・北門跡

楽田城築城時には整備されていたと思われます。

枳形

典型的な形状が残っている。現在歩道橋が架かる。

追分

道標がカタメておかれている。「右きそ、左犬山みち」「右善光寺、左三光神社」「尾張富士道従是二十丁」と刻まれているらしい。

五里塚旧蹟（一里塚跡）

名古屋城から約20キロ。そろそろ疲れます。

唐臼の軸受け石

2個あり。引き込みの用水に近いので、水車小屋で利用されたのではないのでしょうか



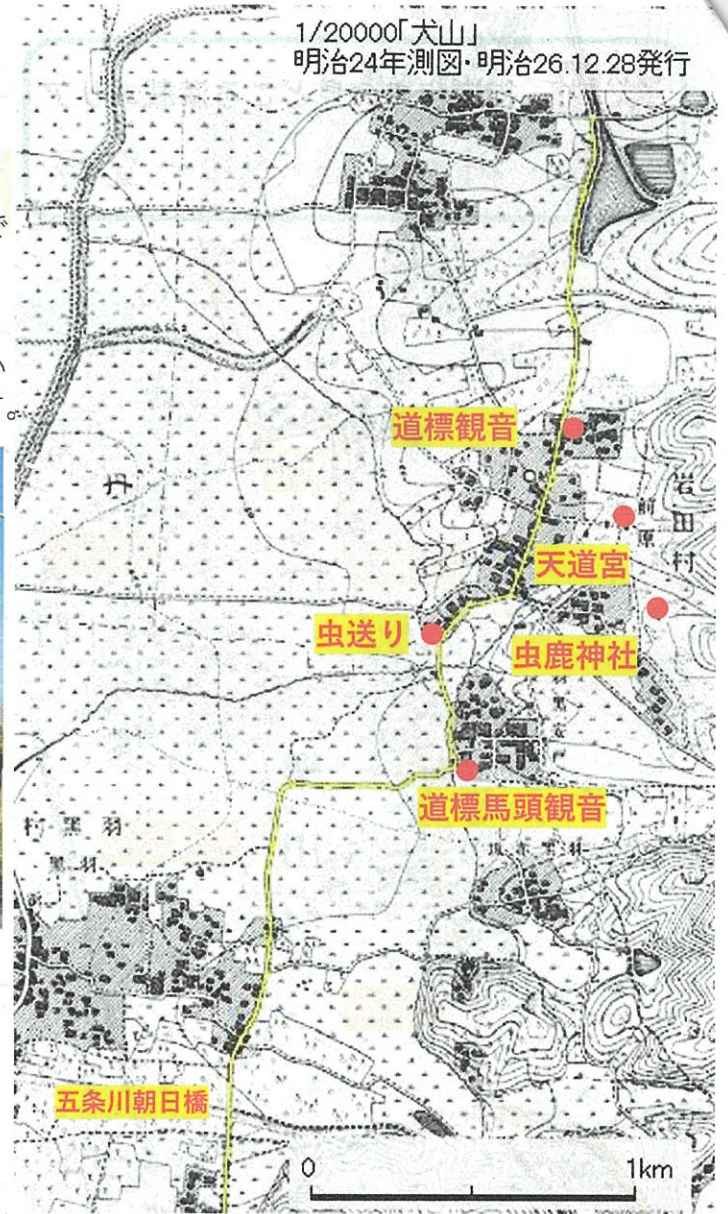
善師野宿へ

道標地蔵

路傍の石仏たちを訪ねるのも街道歩きの楽しみです。道しるべを兼ねた仏たちも多くあります。

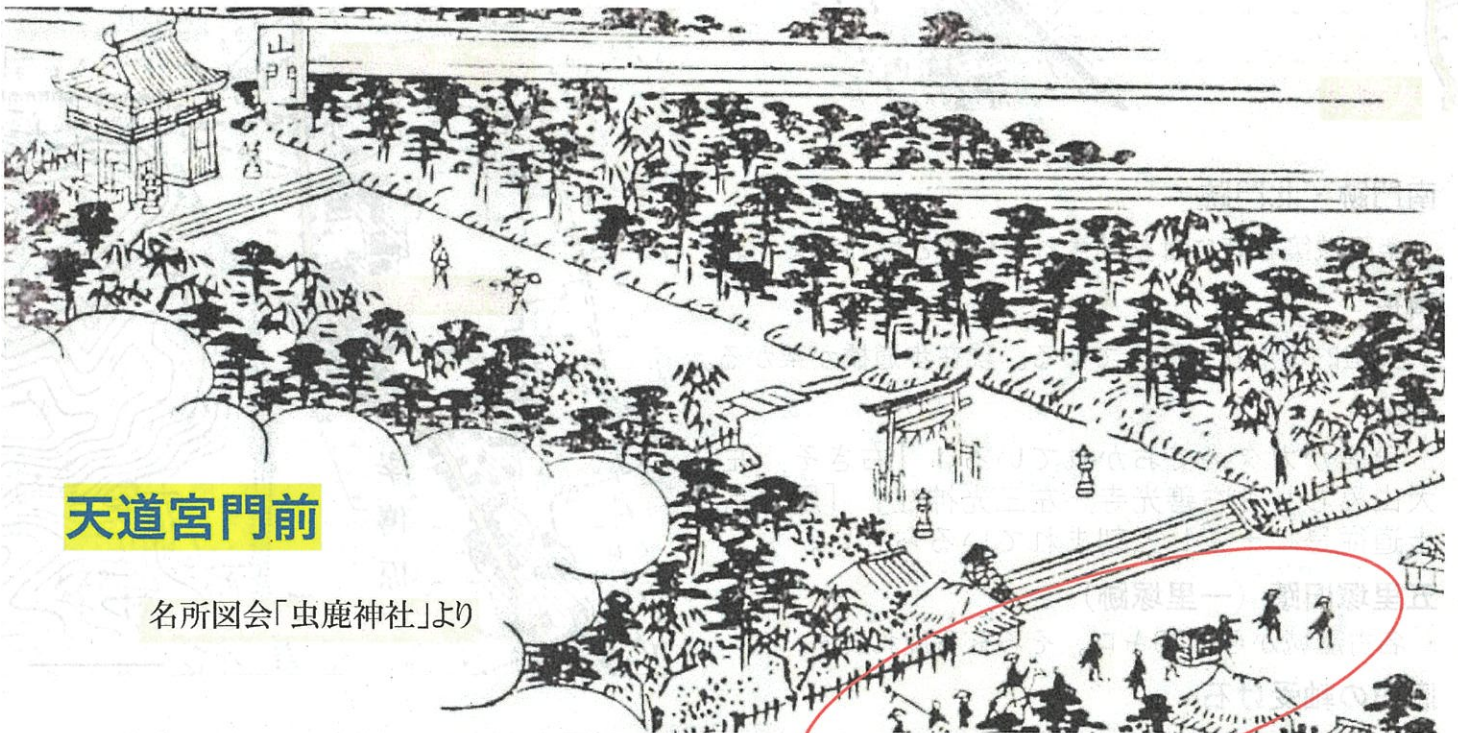
祭事の痕跡

前原地区では「虫送り」の行事が今も行われています。そのわら細工が村はずれに立てられています。



虫鹿神社と天道宮

どちらも入鹿池の築営とともに、入鹿村から現地に移転しました。虫鹿神社（三明神社とも）は式内社。また、天道宮神明社の楼門は県指定の文化財。神仏習合の時代を伝えています。



天道宮門前

名所図会「虫鹿神社」より

大名行列?

善師野宿

名古屋から中山道へは「楽」でかつ「早い」下街道が人気に。善師野宿はつらいヨ。的な雰囲気が良い。

本陣跡

本陣は、禅徳寺北隣の旧日比野家。残念ながら建物は無い。

禅徳寺

室町時代創建。馬頭観音等の石仏や善師野石製の灯笼は見ごたえがあります。教育者で作曲家でもある堀澤周安の菩提寺でもあります。

一里塚跡

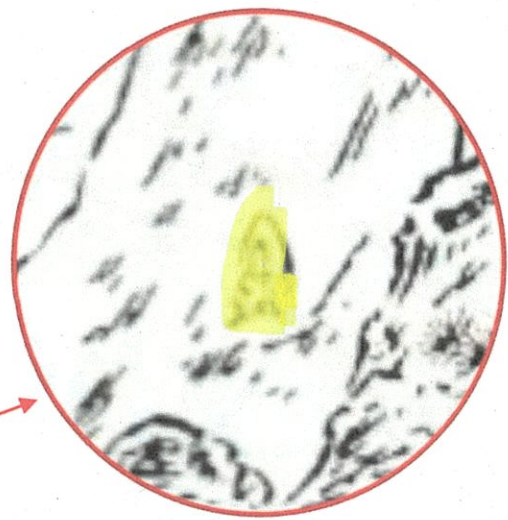
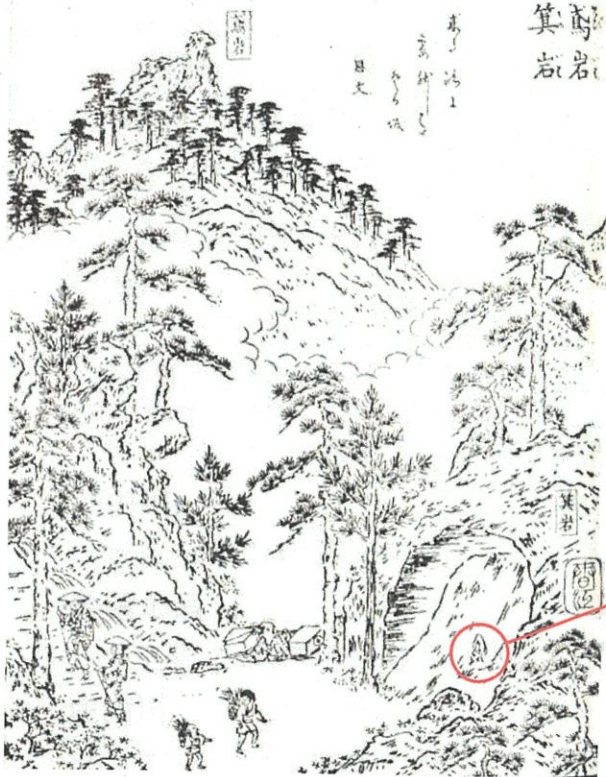
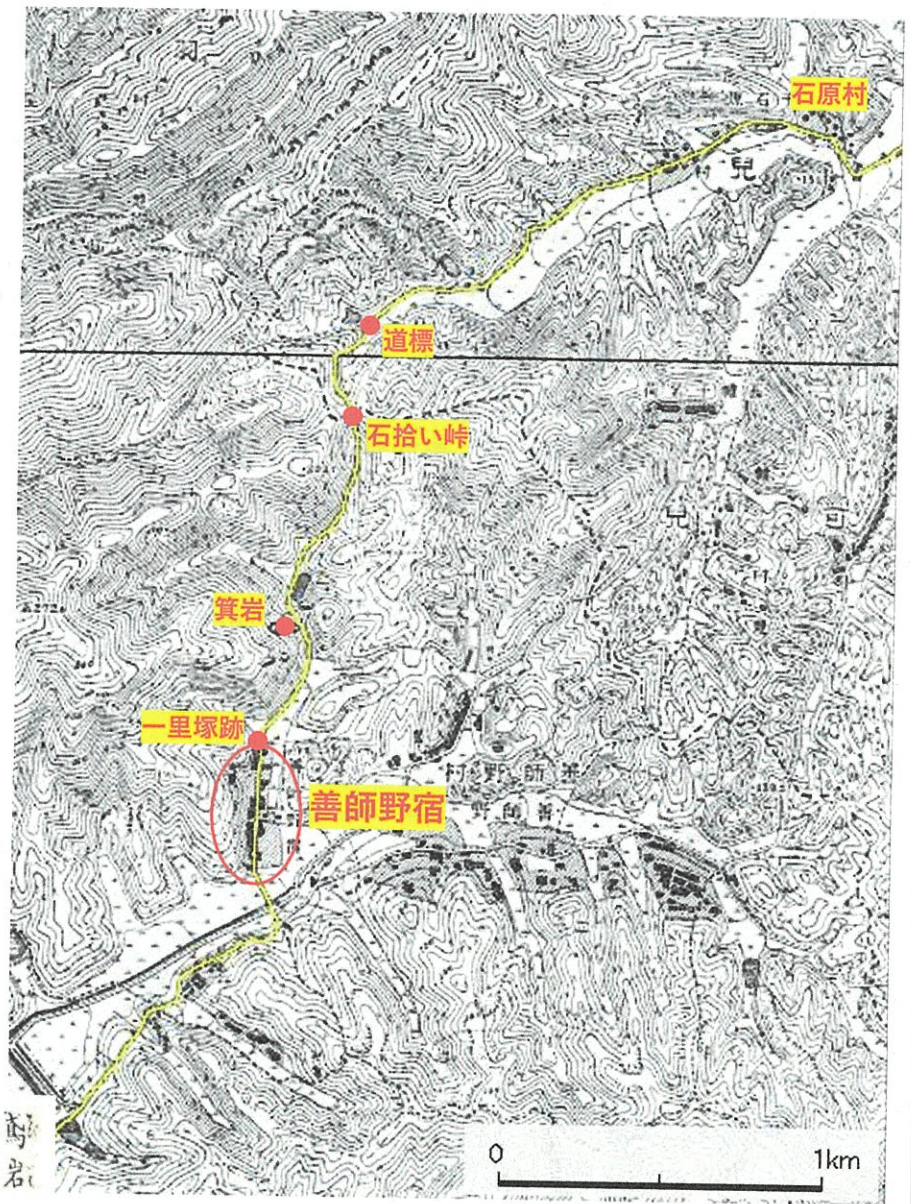
馬頭観音と、地元の方の私費による新しい道標が立つ。お花は絶えない。

箕岩

峠へ向かう切通しの大岩。名所図会の雰囲気が今に残る。岩の中ほどの「金の仏様？」に注目ください。

石拾い峠

標高160mの国境峠。現在はハイキングルートの十字路でもあります。



そして土田宿へ

名所図会「鳶岩 箕岩」より